

“自分を大切にできる子どもたち”を一緒に育てていきませんか？

ぼくは、まいにち おふろのそうじをしているよ。おばあちゃんは、ぼくがそうじしたおふろに入ると、とってもきもちいいんだって。

(他者や社会とのつながりの中で「自分にも、人や社会のためにできることがある」と感じる気持ち)

わたしは、かけ算九九の「七のだん」がにがて。でも、お家の人と何回もれんしゅうしたら、言えるようになったよ！

(「自分には、なにかを成し遂げたり、達成したりすることができる力がある」と感じる気持ち)

ケンちゃんたちの方が速いけれど、ぼくは走るのが大好き。いつかマラソン選手になって、42.195 kmを走るのが夢なんだ。

(自分の将来を想像し、職業だけでなく「自分があこがれや理想とする姿に近づきたいと思う気持ち)

わたしは、いつも元気に笑顔であいさつしているよ。みんなから「あいさつ名人」って言われているの。

(「自分には、得意なことやがんばっていることがある」と感じる気持ち)

僕は、ちょっといいかげんなところもあるけれど、友だちは大切にしているよ。

(自分自身の感情や性格などをできるだけ客観的に認識する力)

私は、家族や先生、友だちから色々なアドバイスをもらうけれど、最後に決めるのは自分だと思っているわ。

(自分に関することを、主体的に思考、判断をし、自分の意志で決定する力)

あなたがここにいるだけで、
とってもうれしい。
生まれてきてくれてありがとう。

子どもたちは、日々の生活の中で、学習したり、様々な人たちとかかわったり、いろんな体験をしたりすることで成長しています。

その中で、ときには子どもたちが「どうせぼくなんか…」「わたしにはむり…」と感じてしまい、自分に否定的な気持ちを感じてしまうこともあります。でも、その気持ちをずっと持ち続けてしまったらどうでしょう？ 生きるということを、大事に考えることができるでしょうか？

そこで、「自分が今ここにいること自体を『いいな』と、自分を肯定的に受け止めることができる気持ち(『自己肯定感』)を持つことが大切になってきます。そして、そのためには、まず周りの大人たちがその子の存在をしっかりと受け止め、その思いを伝えていくことが最も重要だと考えます。

日田市教育委員会では、学校や家庭、地域と協働しながら様々な機会をとらえ、子どもたちの『自己肯定感』の育成を目指しています。みなさん、“自分を大切にできる子”と一緒に育てていきませんか。